

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

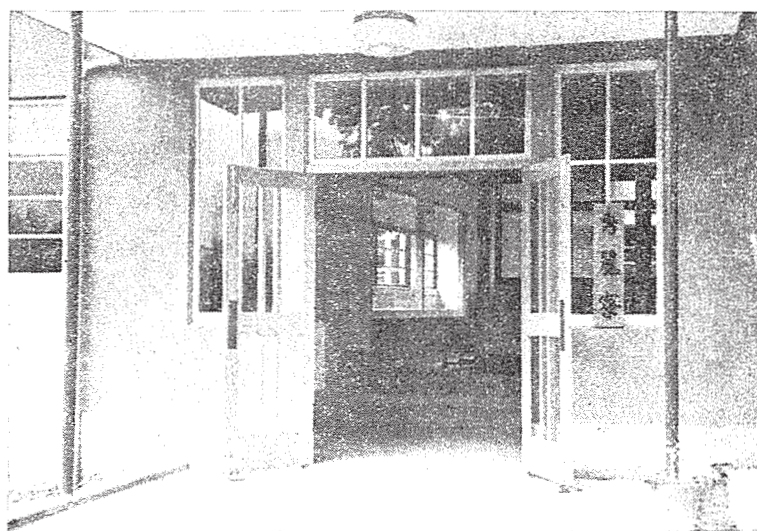
Osaka, Sep. 15th, 1954. No. 272.

關西大學學報

第 2 7 2 号

昭和 29 年 9 月

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
通卷第二七二号
昭和二十九年八月十五日発行（毎月一回十五日発行）



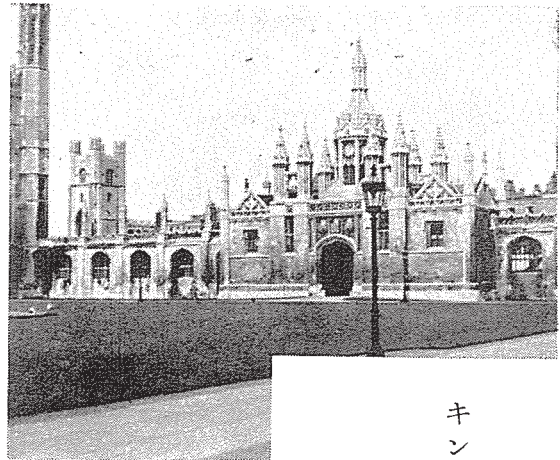
(旁 屍 察 才 二 寮)

關西大學學報局

キングス・カレッジを訪れて

海外研究員だより

森 川 太 郎



(ケインズのいたキングス・カレッジ)

の努力を払っているようです。つまり表面は応答に振舞いながら、内面的には深謀遠慮を以てする利害の打算に抜目のないのが、英国のやり方と云いませうか。近年の対日政策も斯様な点から割出されているのではないかと思われますが、具体的には今申上げる余裕がありません。最近も当地の新聞は英国経済の回復を謳い、一人当り国民所得の増加、消費水準と国民貯蓄の増大はアメリカ人も羨む程である等と書いていましたが、これも休暇季節を前にしての宣伝もあるのではないかと見る人もありました。

しかし斯く云えばとて英国の運命を既に傾きつゝあると見るのは早計でせう。と云うのはこの国に、特に青年の間に質実剛健とでも云うべき気風が未だ残っていないことです。街頭でもリユックを背負つたり、ひざ小僧をむき出しにした自転車乗り姿で山野に出かける若い男女の姿をよく見かけます(アメリカでは余り見かけない風景です)。それに若い人で煙草を吸わない人が案外に多い。若い婦人は余り口紅をつけない(口紅をつけているのは大抵中年以上の婦人です)。このようなことこの国の青年の真面目であることを物語る一証左であつて、国の将来が青年にかゝるものとすれば、英国は既に老境に入つていると簡単に断ずることが出来ないように感じます。

× 大学は生憎休暇に入っていましたので、学生は居りませんでしたが、それでも若干の教授や研究室の人々

に会うことが出来ました。ケムブリッジ、オックスフォードの両大学を始め、ロンドン大学、グラスゴー大学、エディンバラ大学等を訪問し、殊にケムブリッジではロバートソン、ギルボード、カーゴディの諸教授、ロビンソン夫人等に会いました。そしてランチを御馳走になつたり、お茶に招待されたりした上、マーシャル・ライブラリーや、曾ってケインズの居住していた研究室に案内されたりする厚誼に浴しました。ケムブリッジの明媚な風光と共に忘れられない思出です。グラスゴーでは教授は不在でしたが、ドクターや講師の肩書のある数人の若い人々とお茶を飲みながら愉快に話しました。



J ロビンソン夫人

× ロンドンではカール・マルクスの墓を訪れました。広い淋しい墓地に、マルクスの墓を垣するようになり、其処にだけ一むらの紅のバラが咲いていたのが印象的でした。エディンバラに行つた時、アダム・スミスの墓が市内にあることを知り、其墓にも参りました。それからスミスの生地であるカーゴディに足をのぼし、生れた場所やスミスの通つた小学校等を見ました。この時は何の予備知識もなく一人で訪ねて行つて道行く人やポリスマンに尋ねて漸く探し当てました。カーゴディの小駅で帰り(エディンバラ行き)の汽車を待つ間の夕暮れ時、日が照りながら雨の降つていたのが忘れられません。

× 英国滞在もあと数日でストックホルムに向います。(八月八日記ロンドンの仮寓にて) (経済学部教授 理事)

× アメリカから英国え来ての第一印象は、アメリカが広漠たる大国で、人々も解放的で茶目氣があり、見えたまゝ能率一ぱいに活動しているに対し、英国は長い歴史と伝統の上に既に成熟し切つた国だと云う感じがす。人々の生活も朝のお茶から始まつて、午前にもお茶を飲み午後四時頃に又ユツクリ茶を飲み、五時か五時半頃には事務所も商店も戸を閉じてそれ以後は買物も散髪も自由に出来ないといふ有様です。即ち一般に悠々と生活し、あまりシタパタしない大人の風格を示しているように見えます。しかしその裏に一種の焦慮は蔽えないものがあつて、アメリカの強大な富力に依る優越、後進国の競争、旧殖民地の離反等情勢変化の裡にあつて、如何にして大英国のプレスチャジを保ち生活水準の維持を図るかに、は常に細心の計慮と最大

ナイル河デルタ

廣瀬 捨三

海外研究員だより

(カイロ通信)

July 18, 1934
Sutepo Hirose,
Lodges Palace Hotel,
King Edward VII Avenue,
Alexandria, EGYPTUS.

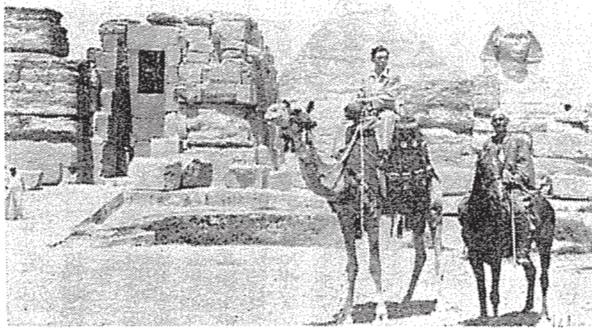


六月二十八日朝イエルサレム旧市内の最後の散歩だと、グマスカス門より入り、スークを通り旧市内を歩き廻った後、東へ出てオリブ山やゼツセマネの園を心ゆくまで眺めた後、アザハラ・ホテルへ帰り昼食、出発仕度をす

る。空港へ来るとに郷愁を感じる。飛行機はもうこれで五回目。いづこも同じ見送る人、見送られる人とりどりの中に、一人で来ては又一人で去る。午後四時二十四分エール・ヨルダン機でイエルサレム空港発。空から今一度イエルサレムに別れを告げる。エリコ、ヨルダン河、死海などを機上から見て、首府アンマンで暫く着陸の後、機は南下する。死海を右手に見るのに全く地図にある通り中くびれになっている。アカバ(Aqaba)湾まで南下してから機は西へ進路を変えてシナイ半島を横断中に日は漸く暮れて、全く「沙漠に日は落ちて夜となる頃」でした。スエズの町に灯がつき、スエズ運河の入口の船が全く玩具のように下に見えていました。午後八時カイロ空港着。むし暑い。空港から街まで四十分位かかる。カイロ夜景を見て流石

大都会だと感心する。今まで廻った所はこと較べると全く田舎のように思われる。ホテルへ着くとビル七、八階で自動エレベーターで行くようになつてゐる。屋上で夕食。永くいるとカイロも

東京と同じく雑然とした都会で感心するほどではない。六月二十九日日本大使館へ行き、与謝野大使、和田一等書記官や杉谷さんらに会う。故国よりの便りがここに来ていて、出発以来初めて連絡がついたのである。ホテルへ帰つて妻や其他から貰つた手紙を読んで嬉し



(スフィンクスの前で)

いというより何んだか妙に淋しい気持がした。これも旅愁であろうか。其後七月三日又和田さんから手紙を受取つたが、この時はもうそんな気持がしなかつた。

カイロで早速トルコとキプロス島のビザを取り、六月三十日と七月一日の二日間半日づつガイドを雇つてカイロ市内とギゼーのピラミッド見物をした。六月三十日カイロ城塞にあるムハメッド・アリ寺院の境内からカイロ市街を見、彼方にナイル河をへだててギゼーの三大ピラミッド(思つたより小さい)を眺め、更に左手遠くにサカラのピラミッド二つが霞んで見える光景を目の当りにして平常の素志を達したのである。七月一日ギゼーのピラミッド見物。型通り駱駝に乗つて一巡してから、スフィンクスの前で記念撮影、第一ピラミッドの内部見物という順序である。三大ピラミッドも思つたより小さなもので、堺の仁徳陵の方が面積に於いて余程広い。丁度あそこも仁徳、腹仲、反正と三大陵あり、世界最大の御陵と大いに宣伝して観光客を誘致すればよいのにと思う。暑い時に御苦労にも暑い国へ来て、日中の照りつける最中に沙漠の中でピラミッドやスフィンクス見物をしたものだから、ついこんなことも思われる。暑さといえば、バグダードの方が日中は熱風が吹いてとても外出出来なかつたが、このの方がまだましである。しかし午後一時から四時までは役所、会社も休みで、商店も閉めてゐる所多く、私も出来ないことにしている。食事時間は一体に近東方面はずれていて、ここのホテルも朝食は七時から十時、昼食は一時から三時、夕食は八時から十時までの間となつてゐるので、さて夕食をすませて散歩しよう

とすると大半店は閉めてしまつて都合が悪い。

七月二日エジプト博物館へ行く。こゝも夏は午前九時から午後一時までだが、冬は入場料一〇ピヤスタ（約百円）なのに夏は一ピヤスタ（約十円）である。ツタンカーメン王の黄金のマスク、二重の黄金のミイラ棺、黄金を貼つた木製の椅子等歴史の本の挿絵で見馴れたものだが、その実物を目の当り見る事が出来た。案外ミイラはむき出しにしていない。エジプト神話の神々の像も小型のは沢山あつたが大きなのは少なかった。ベス(Bes)という布袋さんをへちやげたような醜惡な神様の像は大小とりどりあつて興味深かつた。二日は金曜で午前十一時過ぎ閉館でとても全部見られず、出発までに今一度行つた。（七月十三日記す）

七月四日沙漠横断バスでアレキサンドリヤへ行く。

六日仏国郵船会社支配人バルベ氏夫人の御案内でギリシヤ・ローマ博物館と前国王の二つの宮殿を見る。当市は史上古くから有名であるが、遺物はあまり古いものはない。博物館は小じんまりしたものだが、主としてローマ時代の墓標、石棺石像が印象に残っている。イエルサレムの考古博物館で見たような小型の人体石像がふんだんにあつて、その優美な曲線美にしばし立止つて見るのである。初期キリスト教時代のミイラもあり、その陳

列箱に皿に入れた白い粉末があるので、これは何かと番人に尋ねるとDDTのことで大笑いをした。この博物館へは八日に又一人でゆつくり見に来た。石棺にヘルクレスやアリアドネの浮彫や、アルフェウスとアレクスザのモザイク、ギリシヤの甕などがある。

又六日バルベ夫人とアレキサンドリヤ西港岸壁にある前国王の宮殿を見る。最近公開されたもので、夫人も初めてのこと。寝室、浴室、便所まで見せてくれる。前国王はここから海外へ追放されたのだそう。西港は外国船も出入する港で、それがこの宮殿から一目で見渡せる。午後アレキサンドリヤの東モンターザ(Montazah)にある夏の離宮を見る。前者と較べて私室などは殊に簡素である。九日又同じ沙漠横断バスでカイロへ帰つてもとのカールトン・ホテルへ戻る。汽車でもと思つたが往復にギゼーのピラミッドが見えるのでやはりバスにした。

カイロ南方サカラ(Saqqarah)の新発掘が此頃新聞に大々的に報道されているので、和田さんから話の種に是非見てきなさいとすすめられるのであるが、ただでさえ足を出している滞在費をこの上使ふわけにも行かず、又このガイドは高いし、この暑さでは用心にしくはなしと止めて、この一週間は専ら金のかからぬカイロ市内の博物館巡りと決めた。（以上七月十四日記す）

（文学部教授）

卒業生相集つて

恩師故本莊鉄次郎先生の墓碑を建立

昭和六年より同十一年頃迄の卒業生が各学年毎に有志相集り本莊先生を中心とする本莊会を結成し、先生から一層親しく種々と薫陶を受けていたが、更に卒業後にも之が持続されて、定期的に或は機会ある毎に先生を慰勞し激励する等師弟の情誼誠に濃やかなものがあつた。終戦後は卒業年次の別を越えて全本莊会として集り先生の温容に接しつゝ今日に至つたのであるが、先生には一昨々年頃より宿痼の病を養つていられた処薬石効なく遂に昨年八月永眠せられた。こゝに於て御遺族の了解を得て本莊会の図師、前田(滝)、岸井、大島、美吉、保井、前田(秋)の諸氏が中心となり先生の墓碑を建立することに衆議を決し、企劃を進め、本莊会に属した面々から予想外の資金が寄せられた結果先生の一周忌法要の日昭和二十九年八月八日に豊中霊園に「本莊鉄次郎先生之墓」と刻まれた美事な墓碑が建立された。当日は西山に陽もまだ高い午後五時、長男光一君の手によつていとも厳肅裡に除幕され集つた教え子達は在りし日の先生を偲びつゝ墓前に傾き心から御冥福を祈つた。

当日の参列者左の通り



遺族側 未亡人、長男光一、長女彰子、次男勘次、他親戚
本莊会側 図師親戚(昭七) 前田滝造(昭七)
岸井八束(昭七) 木谷幸三(昭七)
大島武夫(昭八) 美吉克之祐(昭八)
野田文雄(昭八) 平井三朗(昭八)
金正良一(昭十二)
大谷盛広(昭十二)
保井剛一(昭一四)
金正 誓

学内報

各種委員会委員長

東京六大学視察

許議員会各種委員会委員長の左記諸氏は東京六大学の現状を視察するため、八月十七日より同二十二日まで上京し、早稲田大学、慶応大学、中央大学、明治大学、法政大学、日本大学等を歴訪した。

中務平吉（評議員会議長）

村尾静明（給与厚生委員会委員長）

梶本信雄（倶楽部設置委員会委員長）

長柄金吾（財務委員会委員長）

下條小野右エ門（学事委員会副委員長）



（早稲田大学大学院視察中の一行）

随行、田中一郎（秘書課長心得兼調査課長心得）金田雅一（庶務課員）

各地に調査班研究出張

夏季休暇を利用して文学部では島根大学と共同して隠岐綜合調査を行い、また千里山法律学会では和歌山県熊野地方に法意識の実態調査を行った。

秀麗寮第二寮完成

大学外苑の隣接地にある秀麗寮第一寮の北側に、第二寮がこの程完成した。環境もよく設備も衛生的で、五十二名の収容力（二室四名宛）があり、食堂、浴場も完備している。なお寮費も四〇〇円の低廉さである。（表紙写真参照）

人事異動

昭和二十九年七月八日付
商学部助手を命ずる

来住 哲二

昭和二十九年八月十二日付
文学部助手を命ずる

東郷 富規子

昭和二十九年八月十二日付
文学部助手を命ずる

前原 昌仁

昭和二十九年八月十二日付
文学部助手を命ずる

吉川 直

海外の大学より

ハーヴァード・ロー・レビュー

續いて寄贈される

ハーヴァード大学法学部の厚意により同学部機関誌“Harvard Law Review”のバックナンバーが本学に寄贈されて来ていることは既報（本誌第一二六七号記載）の通りであるが、この程左記のものが寄贈された。

Harvard Law Review:

Vol. 1 No. 3, Vol. 24, Nos. 2—4.

Vol. 33, Nos. 2, 6, Vol. 52, Nos. 2—4.

アメリカ国会図書館と圖書交換

昨年十月アメリカ国会図書館より本学刊行學術誌の寄贈方を申込んで来たので、各論集のバックナンバーを揃えて寄贈し、爾来同図書館と圖書の交換を行っているが、この程更に本学各学会の機関誌「アンゲリカ」、「英学」、「国文学」の寄贈方を依頼して来た。

なお同図書館からは“Information Bulletin”や“Annual Report of the Librarian of Congress”を寄贈して来るほか最近左の圖書が寄贈された。

1. Rules for descriptive cataloging, and supplement, 1949-51.
2. Korea: an annotated bibliography. Russian Language

Far Eastern Language

3. Manchuria: an annotated bibliography.
4. Maps: their care, repair, and preservation in Libraries.
5. Introduction to monetary theory.
6. Ethical systems and legal ideals.
7. Principles of microbiology.
8. Gardens of the Antilles.
9. The Harvard outline and reading lists for Oriental Art.
10. Mirrors of flowers.
11. Textbook of gynecology.
12. Ophthalmologic diagnosis.
13. The Last Supper of Leonardo Da Vinci.
14. Professional problems in psychology.
15. Oliver Goldsmith, by William Freeman.
16. The gods are atheist, by Anatole France
17. The complete poems of Emily Bronte.

（出版部）

英国諸大学における

夏期講座 (Summer School)

一九五四年度イギリス及びスコットランドの大学夏期講座は、オックスフォード、ストラットフォード・オン・アボンドン、エディンバラ等において開講、エディンバラではスコットランド諸大学共同主催で歴史的なテーマ、ロンドンでは十七及び十八世紀についての特殊研究、ストラットフォードではバーミンガム大学主催でシエクスピア研究、オックスフォードでは現代政治と文学とについて等のテーマで行われた。聴講生は英本国のみならず、アメリカ、欧州各国より参加している。（海外資料による）

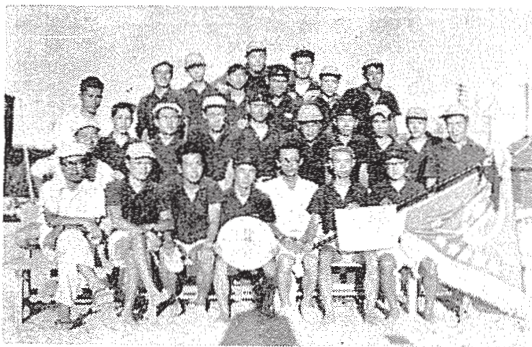


全日本学生ヨット選手権に 初の優勝!!

艇庫もなく、充分なヨット及び資材もなく、困難な条件の下で、苦勞を重ねて来たヨット部は、遂に今夏・八月十三日より十五日迄、三日間、四国、高松市、大の場ヨットハーバーで行はれた選手権大会に、全国の強豪を破つて堂々優勝の栄冠を獲得した。

予選、決勝の戦績は次の通りであつた。

予選	B組	Aクラス	着順	得点
一回戦	梶口・米沢	梶口・米沢	5	2
二回戦	梶口・米沢	梶口・米沢	4	1
三回戦	梶口・米沢	梶口・米沢	1	0
失格	梶口・米沢	梶口・米沢	14	11



(優勝したヨット部)

決勝

一回戦	二回戦	三回戦	四回戦
梶口・米沢	梶口・米沢	梶口・米沢	梶口・米沢
5	1	2	8
11	6	2	11
8	12	2	6

各校得点表

予選B組	立命大	名工大	小樽
113	110	107	95
3	6	7	11
10	8	10	11
12	13	8	10
失格	12	13	8

東西対抗ホッケー戦に ホッケー部活躍

第七回東西対抗ホッケー戦は七月十一日二時より西宮球場で行われた。慶、明、早、法其の他の連合軍に対して西軍は関大単一チームで対戦熱戦の未昨年同様引分、この結果東軍四勝一敗二引分となつた。西軍は立ち上り激しく攻撃したが、シュートがいずれもはずれ先制の好機を逸し、其の後東軍バックの早い出足に中盤を制せられ、守備の浅くなつた虚をつかれて先取点を許したが、チームワークと体力に優る西軍は、二十分東軍ゴールキーパーの反則でペナルティーを得て、CH洪がこれをきめ対スコアーとし前半を終つた。

後半に入りハーフのフォロウを得てスピードのある重厚な攻撃が続けたが、シュートがいずれもコーナーを制つてものにならず、逆襲から東軍CF見事に中央に切れ込んで2対1とリードされた。其の後再びペナルティを得たがこれを逸しようやく二十六分Rー巧みに廻り込んでセンターリンクしLークリンシュート同点にした。このあたり関大らしいプレーであつた。

決勝 Sクラス

一回戦	二回戦	三回戦	四回戦
奥井・安井	奥井・西川	奥井・西川	奥井・西川
3	7	9	5
2	8	3	7
10	11	6	4
11	5	6	4

東軍が二本のシュートを全部ものにし歯切のよいプレーをしたのに比較し、西軍はテクニク体力、スピードに優りながら何かもたついた感じで、十数本のシュートを放ちながら二点にとどまつた事は練習試合に恵まれずゲームに対する感じがにぶつていた事もあつたが全員に今少しの強引なプレーと激しい斗志があればと惜まれてならない。

西軍2(11-11)2東軍

西軍

関大	2
立命大	1
名工大	2
小樽	0
失格	0

東軍

慶應	2
明治	1
早稲田	2
法政	0
其の他	0

対関学ナイターに勝利

秋の覇権を旨とし、最後の総仕上げとして行われた、第二回関学ナイターは二十九日午後七時より、西宮球場で行われ本学は軽く関学を8対4で破つた。

本学は一回立上りに平井、西村の連続安打と野選に一点を先取。三回裏、関学はシングルヒットが続く一点を奪回、試合を振り出しに戻したが、以後本学は好調の波に乗つた打線を爆発させ、4、5、6、回に各4点2点1点と大量得点関学後半、川村の球接を退け軽く関学を4点に押さえ、今秋覇権への望みを濃くした。



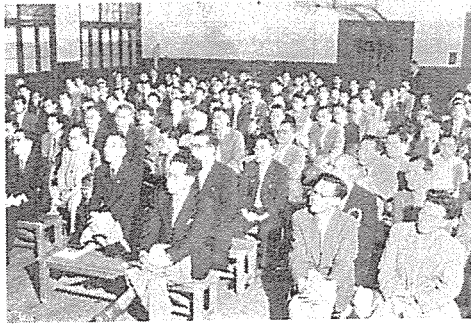
校友バツヂ

校 友

大阪府廳開大会總會

永い間の懸案であつた校友会大阪府庁支部の結成は本年二月以来具体的な準備を進めてきたが、去る六月十九日午後二時から大阪市立東中学校講堂でその發会式を盛大に挙行政した。当日学校側からは岩崎學長、白川理事長、久井専務理事、安井校友課長ら出席、参会する會員も二百名を超え、盛況であつた。

まず司会者藤田令允氏の開会の辭、吉



大阪府庁支部

田一郎氏が發起人を代表して本支部發会に至るまでの経過を説明、その意義を強調する挨拶を述べ、ついで寒川喜一氏を議長として会則案等を審議、支部長に今井憲夫氏はじめ別記の通り役員を選出、發会式もとどこおりなく終了、ここに五百余名の會員をもつ関西大学校友会大阪府庁支部、名付けて大阪府庁秀麗会は發足した。

引続いて今井支部長を座長に第一回の總會を開催、來賓として岩崎學長、白川理事長、久井専務理事からそれぞれ本支部發会に寄せる祝辭に併せて、母校の現況將來の抱負、決意など熱意こもる挨拶があり、ついで議案に入り、寒川氏が母校拡充資金後援について提案理由を説明、全會員の母校愛に訴へ一人のもれる者もなく記念募金に応じたい旨を述べ、具体的方法については役員会に一任することを承認して議事を終つた。

- 支部長 今井 憲夫
 副支部長 西野健次、田中功
 幹事長 吉田 一郎
 幹事 井上敬雄、磯村久郎、池原忠夫、大川三三、尾崎柳一、寒川喜一、喜多末吉、北本弥市郎、寺田伴嗣、頼戸勇、鳥丸忠志、中井保、久松龍治、増田一雄、三好一夫、柳沢重範、山本茂、今井長二、藤田令允、音川忠雄、石原久弘、小川大三郎、福田一夫、辻本重雄、柴田弘、三好恒雄、田口頼賢、寺井清次、藤崎民次郎、尾崎行貞、仲谷幾夫、田中清、大浦善雄、飯島旭、原良人、原秋寿、深尾弘計、山本弘吉
 監事 福中定三郎、安川勝太郎

- 出席者
 吉川 彦治、藤田 令允、中村 忠一、浅海 博
 石原 皓司、山田 忠男、中村 忠雄、森川 清司
 山形 久弘、森田 謙郎、佐倉俊文、溝淵 直政
 山本 保、中村 博正、上田 幸雄、山本清之助
 藤本 忠弘、南 弘、柏原 能心、福中定三郎
 高崎安太郎、森本 利之、松葉 政芳、中尾 茂雄
 岸本倫太郎、松田利三郎、向井 忠夫、小川大三郎
 吉川 龜雄、松浦仁一郎、天船 正虎、金森 秋雄
 河合 道雄、藤森 耕一、能勢 正三、浜田 秋雄
 福田 一夫、筒井 國義、田淵 三郎、藤本不二夫
 中谷 修、杉山 弘、岡 博、中島 義雄
 石田 邦雄、正川 勉、安見村太郎、牧野 昌輝
 平尾 豊男、池田 正、寺岡 正義、上田三子郎
 森本 信親、田中龍之助、米田 昌、金岩 善彦
 榎原 孝雄、三橋 龍一、大島 利雄、石田 和男
 上田 万年、橋田 悟、大田 正治、三木 森一
 富沢 榮厚、喜多省三郎、池本 進、田辺 卓起
 杉本 英和、穂積 芳男、岡野 繁、大川 三三
 植田 宏、広崎 勝美、田中 博、松田 錦弥
 吉原 裕、三好 一夫、田村 利久、岸田 勲
 吉原新太郎、吉田 一郎、中村 平治、中村 昌平
 辻本 重雄、吉田 勝、丸山 周作、尾子 昌作
 垂井安三郎、武田 昭三、山田 一夫、谷口 寛市
 山形 一男、山口 健彦、谷 延三、中西 武
 井上 良雄、中塚 良夫、森 正十、雨宮 正男
 長者 千里、樋口 輝雄、井上 正吉、竹村 盛一
 榎本 恒一、金子 厚義、中井 保、田中 源吾
 西野 健次、上山慶二郎、森田 新吾、前田 敏政
 岡田 正治、井上 馨、日下 明、加藤剛一郎
 中小路 淳、中村孝太郎、阪野 峯彦、平治 治
 芝野 淳、片岡 國江、飯綱 浩一、水迫 孝市
 中矢 喜雄、尾崎 行貞、堀江 貞勝、沢田 康治
 永田 榮、上西 喜藏、大西 賢治、中井 貞顕
 山田 昇次、清水 外則、有家 広治、山本 正義
 当山 竹一、仲谷 幾夫、松若 敏夫、山本 清
 田中 清、中野 道正、南木 繁久、佐野日出雄
 小橋 久男、鳥丸 忠志、安田作太郎、森島 包光
 井上 光雄、大浦 善雄、永井 嘉郎、苗代 豊
 松井 亮、森山 敏徳、高木 一郎、北本弥市郎
 飯島 旭、岡田 敏徳、高木 一郎、北本弥市郎
 西田 忠雄、寒川 喜一、橋本 英吉、山本 弘吉
 熊川 長弘、頼戸 勇、奥川 武郎、今井 憲夫
 尾崎 柳一、龜山 放、山中 勇

富山支部總會

六月二十日富山ホテル駅前支店に於いて富山支部總會を開催、昭和二十七年十一月末以来久し振りの總會であつた。母校より矢野常務監事、石川支部より中西支部長、小間井副支部長出席、先づ古屋支部長の挨拶、川西校友より欠席者の消息發表、中西石川支部長、小間井副支部長より富山、石川支部充実協力方の意見あり、新役員選定の後、矢野常務監事より母校の近況報告、母校の發展に協力、支部充実等申合せて、盛會裡に散会した。

支部新役員決定

- 支部長 古屋 東
 副支部長 栗山 基一、宮本 五郎、中島 正文
 常任幹事 奥田 倫藏
 幹事 矢野地区 杉田 信義、吉田 安秀
 富山地区 山本 保、川西 庄造
 延谷 謙三
 米田 実
 福田 作造

- 当日出席者
 大学側 矢野常務監事
 石川支部 中西 与七、小間井与一
 富山支部 古屋 東、栗山 基一、安田 倫藏
 井田 宗明、橋詰 兼義、川西 庄造
 矢内原和一、釣谷 蔵、延谷 謙三

石川支部春季總會

石川支部春季總會は六月十九日午後二時より兼六公園内「たなか」に於いて開催、中西支部長議長となり新役員選定の後、矢野常務監事より母校七十周年記念に伴う拡充計画、將來の方針等について

説明があり、母校の発展に協力、支部の充実等を申合せて午後九時盛大裡に散会

支部新役員

支部長 中西 与七
副支部長 小間井与一、木梨与松
常任幹事 渡辺 敏夫、田中 健夫、能沢 護
本江他美夫、向田外志夫、本井 基樹
顧問 松林 禰作、角井 健治、上村 勝英
満田清四郎、里見 復二、松永 善光
木村佐太郎

当日出席者

母校側 矢野常務監事
支部側 中西 与七、小間井与一、田中 健夫
木梨 与作、本江他美夫、能沢 護
向田外志夫、本井 基樹、松林 禰作
角井 健治、上村 勝英、山越 外吉
渡辺 敏夫

続いて七月三日午後二時より小間井副支部長宅に於いて役員会を開催支部の運営行事等について協議した。

当日出席者

中西 与七、小間井与一、田中 健夫、上村 勝英
角井 健治、松林 禰作、本井 基樹、渡辺 敏夫

関大関門北九州地区同窓会

七月二十七日午後六時小倉市に於いて関門北九州(六市)地区在住校友相集いて岩崎学長を囲み懇談会を開催、先づ石丸氏より本同窓会開催までの経緯報告、次に岩崎学長の「母校の現状と将来の構想について」の説明、各自自己紹介、学歌斉唱の後母校の発展、関門北九州地区同窓生の発展を祝して万才三唱して閉会。

当日出席者

大学側 岩崎学長
校友側 岡本 勲治、久保 正毅、田中 則親
坂口 幸策、酒井 要、高野 時治
冷泉 宗祐、村田 保和、石橋 栄市

千里山十期会

八月三日(水)午後六時より北ミューンヘンに於て一水会例会開催、諸般の面白き話題続出興味深き時を過ぎた。

当日出席者

江里口春志、河内 兼三、河合 中、川澄 秋一
竹沢善代治、田坂 敏夫、長谷川清二、松谷 連哉
森下 善雄、矢野 文雄、柳田 栄次、中山 巖

昭六会 総会

立秋も過ぎた八月十一日午後二時より



昭六会

大阪府吹田朝日ビール株式会社吹田工場に於て所内見学を行った。

所内見学後、上野氏より本会の寄附状況説明があり午後五時過ぎ散会した。

出席者

足立 喜道、青野 昌平、有賀 司郎、今井 憲夫
上野 俊彦、奥川 武郎、岡部 俊吉、楠井 文雄
後藤 幸重、斎藤 善三、鳴尾芳太郎、中谷 勝
藤井 兵蔵、福原菊治郎、久井 忠雄、道端 長作
富田 八束、門田 文三、柳沢 幸治

校友名簿発刊について

母校七十周年記念事業の一環として左記の通り昭和三十年用校友名簿の刊行を予定し、鋭意準備を進めております。

昭和二十八年用名簿発行後の校友各位の御異動(現住所、職業又は勤務先)等御気付の方はより良き名簿完成の為、御面倒乍ら左記宛御通知賜ります様御願ひ申し上げます。

昭和二十九年九月十五日

大阪市大淀区長柄中通

関西大学校友会

記

- 一、規格 B五判(学報型)
- 二、予定価格 金五百円也
- 三、収録人員 約二千七千人
- 四、内容 氏名、出身府県、現住所、職業又は勤務先
- 五、発刊予定日 昭和三十年九月末

(10頁より続く)

寄附金分類集計表

昭和二十九年八月三十一日現在

種別	申込件数	申込金額	友校					事務職員	合計
			個人	その他	同年会	職域会	地方支部		
篤志家	三	六、四九五、七四〇.〇〇							
関係業者	四	七、九一〇、〇〇〇.〇〇							
地方支部	一六団体	三、〇七五、〇〇〇.〇〇							
職域会	九団体	三、〇一〇、〇〇〇.〇〇							
同年会	一〇団体	二、四六七、五〇〇.〇〇							
その他	五団体	一、二〇〇、五〇〇.〇〇							
個人	一六	七、七六六、五〇〇.〇〇							
教育後援会	五	五、六六七、七〇〇.〇〇							
学校法人役員	三	九、五〇〇、〇〇〇.〇〇							
評議員	一	一、二七〇、〇〇〇.〇〇							
教員	九	一、七四〇、〇〇〇.〇〇							
育中	二	一、〇〇〇、〇〇〇.〇〇							
幼稚園	七	六、〇〇〇、〇〇〇.〇〇							
計	一五	五、〇〇〇、〇〇〇.〇〇							
事務職員	二六	一、〇〇〇、〇〇〇.〇〇							
合計		三、九二七、八四〇.〇〇							
内重複額		四、一五五、五〇〇.〇〇							
差引合計		二、八七二、三四〇.〇〇							
収納額		一九、三七、四九〇.〇〇							
未収納額		九、五四四、八五〇.〇〇							

感謝録

別項記載の通り、母校創立七十周年記念拡充資金寄附を募集致しました処、その趣旨に御賛同下さいまして陸続左記の通り御寄附をいただきました。八月三十一日迄に拝受しました御寄附者の芳名を爰に録し、謹んで感謝の意を表します。

昭和二十九年八月

学校法人 關西大學

關西大學七十周年記念

拡充資金寄附者芳名(八)

昭和二十九年八月三十一日現在(順序不同、敬称略)

一、篤志家の部

(才八回)

金貳万円也 高浜宇佐吉
金五千元也 福井鉄次郎
金貳千元也 阪本 政弘
金貳千元也 中西 忠雄

計 金參万円也
累計金六百五拾壹万參千七百円也

二、關係業者の部

(才八回)

金貳拾万円也 株式会社 大 丸
金拾貳万円也 山下常三郎
金壹万四千元也 竹井機業工業株式会社
金壹万參千元也 株式会社 青井井田製鐵所
金五千元也 浜田 康

計 金參拾万貳千元也
累計金七十九拾壹万円也

三、校友の部

1 地方支部

イ 川辺支部 (才四回)
金五千元也 亥野 貞吉 犬13 大桂

計 金五千元也
累計金貳拾參万円也

ロ 尼崎支部

(才一回)

金五万円也 松尾 高一(昭2 専経)
金壹万円也 浜本 正吉(昭14 大法)
金壹万円也 山野田重治(昭2 専法)
金壹万円也 吉田吉太郎(推 薦)
金貳千元也 貴村 一雄(昭14 大経)
金壹千元也 橘谷 弘(昭14 大商)
金壹千元也 岩崎 茂夫(昭27 専一法)
金壹千元也 杉尾 元茂(昭26 専二法)

計 金八万五千元也

(才一回)

ハ 奈良支部

金參万円也 高橋 正次(推 薦)
金參千元也 大原 篤(昭7 専法)
金貳千元也 新道 義雄(昭16 専二経)
金貳千元也 中 善一郎(昭23 大経)
金貳千元也 和田 秀一(昭13 専二商)
金壹千元也 岩本 信正(昭8 専二法)
金壹千元也 福屋 昭(昭24 大法)
金壹千元也 松村常太郎(大9 専法)
金壹千元也 松田 弘(昭16 専二法)

金壹千元也 武田 英司(昭18 大経)
金壹千元也 山口 勇(昭26 専二商)
金壹千元也 和田磯二郎(昭25 大経)
金壹千元也 田口 肇(昭25 大英)

金壹千元也 木村 正則(昭26 専一商)
金壹千元也 今西 学(昭26 専一商)
金壹千元也 千田 茂治(昭15 大政)
金壹千元也 岡田 弘長(昭27 専一法)
金壹千元也 安田 忠嗣(昭17 専二法)
金壹千元也 向井 俊之(昭26 専一法)
金壹千元也 喜多 藤松(昭13 専二法)
金壹千元也 福井 政雄(昭21 大経)
金壹千元也 二塚 正也(昭21 大経)
金壹千元也 岡田 義一(昭25 専二経)
金壹千元也 高垣 美英(昭25 専二経)
金壹千元也 高垣 龍介(昭18 大法)
金壹千元也 面谷 勝(昭18 大経)
金壹千元也 野村 正直(昭18 大商)
金壹千元也 橋本政治郎(昭14 専二商)
金壹千元也 中西 正和(昭28 院法)
金壹千元也 襄 善鎬(昭27 専法)
金壹千元也 西田 義介(昭3 専経)

計 金六万四千元也

二 和歌山支部

(才一回)

金參万円也 高垣 善一(昭1410 大経)
金壹万円也 織田佐代治(大14 大法)
金壹千元也 宮本 喜藏(昭16 大商)
金壹千元也 赤坂 惠龍(昭39 法)
金壹千元也 加藤 道宣(昭17 大政)
金壹千元也 竹中 美夫(昭11 専商)
金壹千元也 北川 静雄(昭7 大政)
金壹千元也 吉田 健吉(昭16 専二英)

計 金四万八千元也

2 職域会の部

(才三回)

金壹千元也 青山 利一(昭17 専経)
計 金壹千元也

累計金四千円也
累計金參拾万貳千元也

3 同期会

(才八回)

金五千元也 道端 長策
金五千元也 西野 富藏
計 金壹万円也
累計金六拾六万參千五百円也

ロ 昭八 会

(才一回)

金貳万円也 松野 幸吉
金貳万円也 大島 武夫
金貳万円也 浦野健二郎
金貳万円也 荒川虎一郎
金貳万円也 賀本 敏英
金貳万円也 山内喜一郎
金貳万円也 平井 三朗
金壹万円也 木下 忠夫
金壹万円也 宮脇慎三郎
金壹万円也 多賀 恒一
金壹万円也 広瀬 義臣
金壹万円也 中江 興
金壹万円也 美吉克之祐
金壹万円也 長沢 健一
金壹万円也 平井 孝道
金壹万円也 奥沢 澄
金壹万円也 中家 利国
金壹万円也 松谷 光広
金壹万円也 岩崎 清
金壹万円也 宮地 正一
金壹万円也 住江 敏夫
金壹万円也 阿部 正貫
金壹万円也 岡沢 卓郎
金壹万円也 竹若 隆三
金壹万円也 田中 則親
金壹万円也 藤本順二郎
金壹万円也 藤川 健治
金壹万円也 北元 正勝
金壹万円也 三谷幾太郎
金壹万円也 西田 春造

金壹千円也 法月 有造
金壹千円也 永田 蕃
金壹千円也 藤川 明江
金壹千円也 岡田 明江
金壹千円也 前田 庄作
金壹千円也 柳原 久次郎
金壹千円也 山中 忠吉
金壹千円也 赤松 磯吉
金壹千円也 藤田 鐵男
金壹千円也 杉田 良藏
金壹千円也 藤本 康男
金壹千円也 木村 勝男
金壹千円也 北本 フサ子
計 金參百貳万壹千円也
累計金五百六拾九万七千七百円也

五、學校法人關西大學の部
評議員
金五万円也 松尾 高一
金參万円也 下条小野右衛門(才一、二回合計額)
金貳万五千元也 戸根 泰雄
金壹万貳千元也 松村 鵬鴻
計 金拾壹万七千元也
累計金百拾參万七千元也

六、教育職員の部
大 学
金貳万円也 太田 鶏一
金五千元也 増田 忠雄
金五千元也 中村良之助
計 金參万円也
累計 金百七拾七万四千元也

事務職員の部
金五千元也 柏原 保祐
金壹千元也 和田 徳子
金壹千元也 国見 貞具
金壹千元也 神屋敷志津
計 金九千元也
累計金百九万九千九百円也

合計 金四百四拾万五千元也
累計 金貳千八百七拾七万七千參百四円也

(合計・累計は重複申込を含む)
まない実寄附金額である)

集計表は八頁最下段)

關西大學法學會學生會費納入に付て

去る昭和二十七年五月關西大學法學會は劃期的な改組を行つたのであるがその結果學生は全員當然に會員資格を取得するに至つた。然し會費納入者に限り機関誌「法学論集」を無料で配布して来たのであるが、法學會としても直接には更に法学教育の徹底を期し、間接には教授の研究に精神的援助を与える意味に於て學生全員に會費を納入して貰ふ必要を痛感するに至つたのである。

そこで今年六月法學會評議員会の議決に基づき且つ法學會總會を開いて學生諸君の諒解を得たので、左記のように決定した。

- 一、會費は一ヶ年金四百円也とする。但し前期二百円、後期二百円として分納すること。
 - 二、會費は所定の用紙に依り、授業料と同時に會計課へ納入すること。
 - 三、會員は機関誌「法学論集」(定価百五十円)の無料配布を受ける。同誌は年四回発行を原則とするが、増刊号を発行した場合でも本会の財政の許す限り無料で配布する。
 - 四、前期分の會費は同年度の法学論集第一、第二号に充て、後期分の會費は第三、四号に當てる。
 - 五、昭和二十九年年度後期より実施する。以上
- ところで右會費年額四百円は年四回の法学論集の無料配布に要する実費を

漸く充つに過ぎない額であるが、大學當局からの援助をも得て資金の許す限り、論集の発行を増加し、少くも隔月発行、出来うれば月刊を理想として居る。學生全員の法學會への加入並に會費納入は、嘗て終戦前は本學に於ても実行されて居たのであり、今日でも調査の結果は他の諸大學に於ても殆んど行われて居り、むしろ本學のかかる処置は遲きに失した觀すらもある。學生諸君の諒解を重ねて願うと共に校友諸賢に於かれても御理解の上ふつて御加入御協力をお願い致す次第であります

尚法学論集は一昨年ハーバード大學からの要請により、有名な機関誌「ハーバード・ロー・レビュー」と交換が行われ、同大學よりは右機関誌が第一巻より取揃えて本學へ寄贈されたことは我々の真に欣快とするところであるが、その他アメリカ国会図書館、ロンドン大學(同大學高等法學研究所年報に關西大學より「法学論集」の寄贈されていることが掲載されている)とも資料交換に用いられ、国内諸大學の機関誌や裁判所の判例集等とも交換が行われて居るものであつて、その評価は次第に高まり交換の要請が益々拡張されつつあることを附加しておきたい。

昭和二十九年九月十日

關西大學
法學會長 明石三郎
法學部長

後援会天六事務所開設について

このたび學部(二部)並に短大(一、二部)學生に対し本後援会の連絡事項に便宜を図るため天六學舎三階校友課内に事務所を設けましたから御利用下さい右御案内まで(勤務時間午前九時より午後五時まで)

昭和二十九年五月十日

關西大學教育後援会

校友總會

昭和二十九年年度校友總會を左記の通り開催致します。昨年度總會は一千名の大集會でしたが、今年はそれ以上の大集會をと期待致して居ります故、校友各位には御誘ひ合せの上御出席下さいます様御願ひ申し上げます。尚七十周年記念事業として劃期的な増改築或いは新築されつつある母校の姿を御高覧願ひ、名実共に一大飛躍を遂げている母校の發展を共に御祝ひし度いと存じます

關西大學校友會

校友各位

記

- 一、日時 昭和二十九年十月三十一日(日)午後一時
- 二、場所 千里山學舎
- 三、會費 金壹百円也(記念品代)
- 四、議事 1、事業報告
2、會計報告
3、會則改正
4、其の他(尚御食事の設備はあります)

昭和二十九年九月十五日発行

關西大學學報 第二七二號

編集兼 久井 忠雄
發行人 大坂市大淀區長柄中通二丁目二番地
印刷所 株式會社 ナニヲ印刷所
電話 堀川(七三〇)二三番

發行所 關西大學學報局
大坂市大淀區長柄中通二丁目
電話 堀川(三三)七五六番
振替 大坂二六七二番

關西大學創立七十周年記念 拡充資金募集趣意書

わが關西大學は、明治十九年河内町の一隅に、大阪に於ける唯一の法律学校として開校したのでありますが、爾來六十有餘年校友先輩の苦心と不断的努力に依つて目覚ましい發展を遂げ、今や一万數千の学徒を擁する私学の雄として、自他共に許す一大學園となりました。其の間幾多の俊英を輩出して、文化の向上、國家社會の進運に大きな寄与をなしたことに尽瘁せられたそれらの先輩各位に対しては深甚の敬意と感謝を捧げずには居られません。

日本は、漸く獨立國家として出発しましたが、國家の前途は甚だ多難であります。わが國は今後、文化國家として世界文化に貢獻すべきであります、またそれによつて友邦の信に應えなければなりません、そのために、教育の振興こそ最も緊要な問題であります。

本學は、大學の崇高な使命を自覺すると共に、歴史と伝統に立脚して、よくその聲価を揚げて参りましたが、真理の討究、學の文化という理想に向つて、益々邁進したいと思ひます。本學が新學制に基き、各大學にさがけて、大學院を設置し、修士課程並びに博士課程を開講したのも要は、その意味において將來の飛躍的な發展を意圖したからに外なりません。

本學は時代の趨勢に鑑み、曩に五ヶ年計畫を樹て、諸施設の改善充実に着手致しました。千里山における大學院、大學ホール、（経済学部、商学部）教室の増築等はその一環として既に竣工しましたが、なお計畫中の事業で、しかも緊急を要するものが種々残されて居ります。即ち、使用上すでに危険な状態にある、千里山（法学部）學舎の改築、二部學生を收容するための天六學舎の増築、學生に対する施設の設けの一部として、千里山尚志館（學生食堂、學友會部室）の増改築等ありますが、これらは逐次工事に着手し或は着工準備中であります。また教授研究室は、現在六十五室を有するに至つたのでありますが、その大部分は、臨時的なもので、更に近代設備を持つ研究室の新築を構想中であります。これらが竣工の暁には學園は全く面目を一新すると思ひます。

こうした外觀の整備と相俟つて、特に重要なものは、大學の眞価を決する教授陣容の充實であります。二十八會計年度においては教授十名、助

教授八名、専任講師五名、助手十七名の増員を予定しましたが、その大半はすでに補充致しました。

教職員待遇については、常にこれが改善に努め、本年度においても相当額の増俸を実施致しました。しかしなお現下の經濟狀態に即応すべき所期の目的を十分に達し得て居ないのを遺憾と致します。教授陣容の充實と共に、研究用圖書の完備も大切であります、この点についても目下鋭意努力して居ります。

さて、上記の事柄は、いづれも緊急を要するものと考へられますが就中、學舎の増改築は、最早一日も遅延を許しませんので、これを早急に達成するため、昭和三十年度に創立七十周年を迎えるのを機会に、その記念事業の一部として実施することに致しました。しかも、建築費だけでも総額約三億円を要するのでありますが、戦後の經濟的混亂により本大學法人の經理も、種々困難な事情を加えており、従つて事業遂行の資金は、止むを得ず關係者各位その他の御援助により御離出を仰がねばならぬ実情にあります。

大學の生命は不朽であります、學園の生々發展を希うためには、各位の學園に寄せられる深い愛情と熱意に俟たねばなりません。翼くは、學園の繁榮を念願する各位の御賛同を請ひ、この七十周年記念事業の完成を期したいと思います。各位の御賛同により本事業完成の暁には、學園はさらに新たな基盤に立つて飛躍的な發展を期し得ることを信じます。何卒御協力の程切に願ひ上げます。

昭和二十八年十一月

關西大學學長 岩 崎 卯 一
關西大學理事長 白 川 朋 吉

創立七十周年記念事業學舎増改築概要

一、工事概要

- (一) 千里山（法学部）學舎改築（鉄筋コンクリート造）
 - 三階建 二千六百六十八坪 工費約二億六千四百萬円
- (二) 天六學舎増築（鉄筋コンクリート造）
 - 五階建 三百七十八坪 工費約三千万円
- (三) 千里山尚志館増改築（木造）二階建 三百二十一坪 工費約六百万円
- (四) 關西大學第一高等學校の千里山外苑への移転新築（一・二階鉄筋三階木造）三階建 七百八十五坪 工費約三千五百萬円